



ハトの糞害対策について

最近各メディアでもハトの糞害について取り上げられるケースが増えてまいりました。見た目にも気持ちの良いモノでなく、風化した糞の粉塵を吸い込むと、人体にも悪影響を及ぼす事も解明されています。

京都には寺社仏閣が多いため、特に市内の高層マンションなどは大変なダメージを受けています。なぜ、一般の住宅でなくマンションなのでしょう。

マンション運営や快適なマンションライフの妨げとなるハトは、2つに分類することができます。1つは他の場所に巣窟を持っていて、お腹が減った時や、餌をくれる人が現れるのを見越して、眺望の良いマンションの屋上やベランダに待機する「待機バト」です。もう1種は、マンションのベランダや室外機の裏に巣を設け、卵まで産み付けている「安住バト」です。ハトには強い帰巢本能がありますので、少々離れた場所に餌を求めに行っても戻って来るうえ、代々住み着かれるので大変厄介です。

ハトは本来、ヨーロッパの山岳地域の断崖に生息していた生き物で、日本には江戸時代に南蛮人によって運び込まれたと言われています。ハトにとっては高層マンション自体が現代の断崖で、格好の住みかとなっている訳です。

まず、「待機バト」への対策ですが、鳩よけスプレーや鳩プロテクターといった物がホームセンター等で購入できますが、特にプロテクターの方はアッチコッチに取り付け出すと意外と予算がかさむ事になりますし、スプレーも含め、期待ほどの効果が上がらないと言うのが実情のようです。

そこで、テレビにも紹介された方法ですが、

屋上のへりの部分に2M間隔に小さな杭を打ち込み、へりから高さ

8cm のところに5号から6号の釣り糸を1周グルリと張り巡らす

のです。へりはハトが最初にハトが足から着地するポイントです。

ところが足より先に翼が釣り糸に接触してしまい、とうとう着地で

きずに別の場所へ移ってしまうという訳です。





次に「安住バト」への対策ですが、ハトの行動範囲は数百キロにも及ぶと言われています。

その習性から翼を傷付けるモノを極端に嫌がります。例えば、現段階で判明しているモノでは薔薇のトゲ。ベランダに薔薇の鉢植えを置くだけでハトはベランダに近寄らなくなります。しかし、一般の方で年中薔薇を栽培するのは簡単ではありませんので、年間を通して、比較的薔薇より簡単に栽培できるハーブの1種である「ローズゼラニウム」をお薦めします。香りの成分は薔薇とほぼ同じで、香水の調香師の第一人者の方がこの方法でハトの糞害から解放されておられます。

※NHK「ご近所の底力」10/7 放送分より参照

どちらにもわかに信じがたい方法ですが、百聞は一見に如かずと申します。ハトの糞害でお悩みの方は、参考にして下さい。

